



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

財田町消防団
(昭和45年頃)

財田上小学校で行われた財田村の消防団演習会。昭和22(1947)年に「財田村消防団設置条例」が施行され、消防団が組織されるようになった。写真中央は可搬動力ポンプで、財田村では昭和27年頃から配備され、昭和35年にはすべての分団に配備された。

「思い出の1ページ」

角岡昌さん(77)は、19歳で消防団に入り、55歳からは団長を務め、団で48年間活躍しました。「可搬動力ポンプが乗っている手押し車で火事現場に向かい、それに乗っている給水管やホースをみんなでつなぎ、消火にあたっていました。当時9町で三消連というのを組んでいましたが、財田は土地柄、山火事に対応する訓練をよくしていて、『山は財田に任せとけ』といわれるほどで、ほかの町の山火事の消火を手伝いに行っていました。高速道路を建設中に起こった豊浜の山火事や、夜中の急斜面での山火事で、団員が整列して歩いて登りながらたき消していたこともいまだに鮮明に覚えています。

私が留守の時に火事があると、家内は私の代わりに、分団員に知らせる屋根の上の手動サイレンをはしごに登って鳴らしてくれたり、簡単な手伝いをしてくれたりと、消防団の妻として苦勞をかけた。団員の家族として表彰してもらったことが、なによりの救いです。消火のための道具はだんだん便利になってきました。『消防は生命を

守り、身体を守り、財産を守る』という消防団の精神は、今も変わることなく引き継がれています。地元でいる人が少なくなり、団員の数も減っていますが、できるだけ地域みんなを守っていただけたいですね」



編集 後記

平成18年1月1日、7つの町が合併して誕生した三豊市。その時からスタートした「広報みとよ」が今月で100号を迎えました。市民の皆さんの笑顔や頑張りを通して、市が一つになっていく姿をお伝えしてきました。初代の担当者に聞くと「まずは7町の一体感を出して、明るくにぎわいを感じられる話題を掲載しよう心がけていました」とのこと。その間、県広報コンクールで3年連続最優秀賞をいただいたり、全国広報コンクールで2年連続入選するなど、市民の皆さんの協力があってこそだと思っています。今後も皆さんに読んでいただける広報を目指していきます。皆さんの地域の行事や話題等がありましたら、広報担当までご連絡ください。取材に伺います。